

## 放課後等デイサービスマネビー 支援プログラム

事業所名	放課後等デイサービス マネビー	作成日	令和7年1月21日
営業日	月曜日から土曜日（12月29日から1月3日までを除く）		
営業時間	平日（月曜日～金曜日） 11時00分から17時30分まで 土・日・祝・長期休業日 9時30分から16時00分まで	送迎の有無	あり
サービス提供日	月曜日から土曜日（12月29日から1月3日までを除く）		
サービス提供時間	平日（月・火・木・金曜日） 15時30分から17時30分まで 平日（水曜日） 14時50分から17時30分まで 始業式・終業式・修了式その他特別な事情により学校が早く終わる日 12時30分から17時30分まで 土・日・祝・長期休業日 11時00分から16時00分まで	利用定員	10名

法人（事業所）理念	<p>利用者が社会生活を行う上で必要となる、日常生活能力の向上、自身で考え決断し行動するなどの非認知能力の向上を目的とする。</p> <p>そのために、精神的・身体的安定の元に、環境を通して様々な体験・経験を積み重ねて、自身の能力を向上させていけるよう支援を提供する。</p>
支援方針	<p>自然体験や社会体験を通して、社会で生きていくために必要な、社会性・協調性、自分で考える力を養うこと。仲間と一緒に様々な経験を通して、コミュニケーション力を養い、逞しくしなやかに生きていける力が育つように支援する。</p> <p>子ども一人ひとりを権利の主体として尊重し、年齢や発達状況、障害特性に応じて、本人の思いや希望を、表情や行動・視線・選び方・絵カード等も含めた多様な方法で丁寧にくみ取り、最善の利益を優先しながら、安心して自分らしく過ごし、社会に参加していけるよう支援する。</p>
支援の方法	<p>本人支援にあたっては、子どもの主体性と意思を尊重し、次の方法を組み合わせて、体験・経験を発達支援につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CO-OPアプローチ（塩津）……子ども自身が目標を立て、やり方を考え、試し、振り返る過程を支え、できる方法を一緒に見つける。</li> <li>・自分研究（倉澤）……自分の特性や得意・苦手、対処の工夫を、本人と一緒に言葉にして整理し、自己理解と対処の力を育む。</li> <li>・集団的治療因子……集団活動の中で、所属感・他者からの承認・役割の経験などが生まれるよう関わり、安心できる関係の中で社会性を育む。</li> <li>・映像・FBを用いた認知行動療法……活動の映像や振り返りを用いて、出来事・気持ち・行動のつながりを一緒に整理し、見通しと自己調整を支える。</li> <li>・体験・経験からのFB（フィードバック）……活動中・活動後に肯定的なフィードバックを行い、強み・弱みへの気づきと自信につなげる。</li> </ul> <p>なお、土曜日に体験した活動を火曜日に映像でフィードバックし、自信や経験の積み重ねにつなげている。</p>

本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所内に駄菓子屋を設け、毎日決まった金額で調整しながら自分で購入する体験を通してお金の感覚を養う。（貯金や友達とのシェア、自身で稼ぐなどを含む）</li> <li>・日々、自分たちの食事は自分たちで用意することを経験する中で、生きるために必要な食に対する理解・関心、また、自身で行える技術の向上を行う。</li> <li>・畑・田んぼでの無農薬栽培を通して、作物を育て収穫し食べる一連の経験から、食と生活への理解を深める。</li> <li>・子どもの主体を尊重し、「やってみたい」「がんばろう」「できた」などの意欲を持って、自身の生活を豊かにしていけるように関わる。</li> </ul>
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外活動を通じて、山登りや15キロウォークなど身体づくりをしていく。</li> <li>・サイクリング・ツリーイング・SUP・釣りなどの野外活動を通して、全身の運動と手先の微細な動きの調整、バランスや感覚の経験を行えるようにしている。</li> <li>・集団での遊びを通して、他者との距離感や力加減等の感覚を養っていく。</li> <li>・一人ひとりの感覚特性に配慮した環境設定を行い、安心して活動に参加できるようにする。</li> </ul>
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々に応じた構造化や視覚支援を提供し、活動の見通しを持って取り組めるようにする。</li> <li>・土曜日の活動を火曜日に映像でフィードバックし、出来事・気持ち・行動のつながりを一緒に整理することで、自己理解と自己調整の力を育む。</li> <li>・予定の変更がある場面でも、見通しを伝えながら、安心して切り替えられるよう支援する。</li> <li>・活動中・活動後のフィードバックを行うことで、本人が自分の取り組み方や強み・弱みを意識していけるようにする。</li> </ul>
	言語・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動後の振り返りや定期的な子ども同士のミーティングの機会を設け、自分の思いを他者に伝える経験を培う。</li> <li>・図解、文字、身振り、写真など、本人に合う方法で気持ちや希望を伝えられるよう支える。</li> <li>・野外活動・社会活動の中で仲間とともに過ごす経験を通して、自分の強み・弱みに気づいていく。</li> </ul>
	人間関係・社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団活動の中で、自身の強み・弱み、他者の強み・弱みを知ること、自分たちで補い合いながら活動に取り組み、お互いを認めあう。</li> <li>・野外活動・社会活動を通じて、他者の存在を認め、自分の強みと相手の強みを知り、お互いに活かし合える関係性を構築する。</li> <li>・活動を通して、協力することで達成する経験を積み重ね、多くの人の繋がりの中で自分が生かされていることを知る。</li> <li>・マルシェ等への出店を通して、社会の一員として人と関わり、お金の学びや社会体験を積む。</li> <li>・高学年が低学年を気にかける異年齢の仕組みを作り、事業所外の交流や社会活動への参加を行っていく。</li> </ul>

家族支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な面談の場や送迎時に、子どもの様子だけでなく家族の状態を知ること、いち早く変化に気づけるように努める。</li> <li>・受診や学校の面談等、保護者の希望に応じて事業所外へも一緒に訪問し、本人について、家庭について理解を深められるようにしている。</li> <li>・ご家庭での関わり方や困りごとを一緒に整理する相談援助を行い、必要に応じてきょうだいへの配慮や保護者同士の交流の機会づくりにも取り組む。</li> </ul>
------	--

移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学・進学に向けて本人の特性を家族と一緒に協議し、子ども自身が移行先でその子らしく過ごせるように進めていく。</li> <li>・学校への訪問支援を行い、本人が過ごしやすいよう学校環境の構成についてアドバイスを行うなど、家庭・学校・地域で一貫した支援が受けられるよう調整する。</li> </ul>
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を通じて、子どもが過ごす保育園や幼稚園、小学校との連携を図る。</li> <li>・「森のはじまり」など地域で活動している市民団体と連携を取って、子どもたちの経験の幅を広げられるようにともに取り組んでいく。</li> <li>・学校・相談支援・医療・行政等と役割を分担しながら、本人と家族を包括的に支えられる体制づくりに努める。</li> </ul>
職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士での写真・映像を用いた振り返りや、事業所の理念・子どもとの関係性の構築の仕方などの研修を積み重ねていく。</li> <li>・CO-OP アプローチ・自分研究・認知行動療法等の支援方法について、事例検討やOJTを通じて理解を深め、こどもの権利擁護・安全管理の専門性向上に取り組む。</li> </ul>
こどもの意思尊重・権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援の前に「何をしたいか」「どちらがよいか」を、こどもに分かる方法で確認し、小さなサインも丁寧にくみ取る。</li> <li>・こどもの最善の利益、合理的配慮、安心・安全を大切に、一人ひとりが安心できる居場所となるよう努める。</li> </ul>
安全管理・虐待防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全計画に基づき、事故防止・送迎安全・緊急時対応・感染症及び自然災害への対応（BCP）に取り組む。</li> <li>・虐待防止委員会・研修・通報体制を整え、身体拘束は原則禁止としたうえで、やむを得ない場合の手順・記録・説明を定める。</li> </ul>
主な行事等	<p>キャンプ、バーベキュー、15キロウォーク、街中ポケモンGO、川遊び、釣り、墨づくり、漆塗り体験、サイクリング、ツリーイング、海・川での野外活動（釣り・SUP等）、畑・田んぼでの無農薬栽培、マルシェ等への出店、街中都道府県ビンゴ 等多数（別添資料1）</p>